

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2022年11月22日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.129

### < 授業中の承認の視点！ >

読者の皆様、冬期講習の進捗は、どうでしょうか。順調でしょうか。コロナ感染の第8波が、来ようとしています。ぜひ、今のうちに冬期講習の集客の準備をして、12月を迎えてください。

さて、今回は、授業中の承認の視点について書きたいと思います。学習塾は、子どもたち・保護者たちの心の居場所です。特に、子どもたちにとっては、学校以上に安心して、そこにいられる場所として塾があるはずですが、なぜなら、学校は、子どもたちのやる気を評価しますが、塾は、やる気を引き出すところであり、評価を高める後押しをすることであります。

また、私は、子どものセルフ・エスティーム（他人から重要だと思われる実感）を向上させることが、塾にとって、教育にとって非常に重要だと思っていますし、そうすることで、心の居場所になると思っています。ですから、そのためには、承認活動が塾にとっては、教育にとっては、非常に重要であると考えています。

特に、強い信頼を感じている先生から承認されると、その子どものセルフ・エスティームは一層高めることが可能になり、子どもの学習意欲が高まり、態度変容が達成できると思っています。ということで、今回は、授業中の承認の視点について書きます。

授業中に、どういうタイミングや内容で承認をすればいいのでしょうか。何事も行動を起こすには、TPO = Time (時)、Place (場所) そして Occasion (機会) に沿ったものでなければなりません。

そこで、「こんなときが承認のチャンスですよ」という観点から、いくつかのケースをお伝えしようと思います。

#### 1. 積極的な取り組みに対しての承認

承認というと「結果」に対するものに終始しがちですが、勉強が苦手な生徒に対しては、まずは勉強・授業への「取り組み」に対する承認が必要です。プロセス承認というものです。「取り組み」とは具体的には以下のよ

うなものが挙げられます。

1. 挨拶ができる。
2. 授業中の座る姿勢や書く姿勢が良い。
3. 筆箱・ノート・テキストを机の上に準備している。
4. 説明の聞き方、演習に集中して取り組んでいる。
5. 宿題をやってきた。

などです。

これらを承認することで、教師との信頼感や子どものセルフ・エスティームを高めるスタートになります。

#### 2. 発問への解答(回答)・演習後の承認

授業中、講師が発問したことに対して子どもが解答(回答)する場面や演習の時間は必ずあります。それらの解答(回答)に対して承認をします。

ここでのポイントは、正答を承認するのはもちろんのこと、そうでない場合でも承認するのが大切です。

「よく考えたね」、「惜しいね、もう少しだよ」、「もうちょっと考えてごらん！答えが出るよ」、「途中までよくできてるじゃないか！」など、答えを出そうとする積極的な取り組み姿勢を承認します。

#### 3. ノートの取り方への承認

子どもが書くノートの内容を承認します。次の分類をご参照ください。

1. 整然と書かれている。
2. 直しを入れている。
3. 自分で考えたコメントを入れている。
4. 先生が指導した内容ができています。  
(計算コーナーを作るなど)

などです。

まったく基本ができていない生徒なら、「問題番号を書いている・日付を書いている」という基本姿勢ができていることから承認を始めるといいでしょう。

中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」

vol.129

4. 成果への承認

結果が出た時に対する承認を行います。ただし、結果に注目するのではなく、プロセスを承認するようにします。確認テストの結果や発問や演習の正答に対するものです。まず、前提として、「できていて当たり前」という意識（暗黙の理想）を捨てることが重要です。「生徒は『できなくて当たり前、できることはスゴイ!』のだ。」このような姿勢で授業に臨んでください。そして、結果に対して、その努力を承認するのです。例えば、確認テストで、満点を取った時に、「満点取るぐらい練習してきたんだな。頑張ったな!」と。決して、「満点を取って素晴らしい!」ということではないのです。

以上、授業中の承認のチャンスを4つ挙げました。先生は往々にして、子どもの欠点や出来ていないところに目が行き、そこを注意しがちです。しかし、前述のような視点を持つてみると、承認のチャンスはたくさんあります。当たり前に行っていることを素晴らしいことだと思っ、承認してください。

子どもたちとのラポールが築かれるようなコミュニケーションを教室で満たすことが、子どもたちの心の居場所になることです。ぜひ、実践するようにしてください。

【編集後記】

★次回 12月号はデジタル版でお読みください★  
日本教育コンサルタント協会（JEC）刊行  
情報誌『塾長応援マガジン 塾を育てる専門誌』

中土井が代表理事を務め、日本教育コンサルタント協会（JEC）が刊行する学習塾経営者のための情報誌『塾長応援マガジン 塾を育てる専門誌』では年4回、JEC 認定コンサルタント陣が、集客や人材育成など、各自の専門分野について、その時期に注力すべきポイントや、最新の業界の動きやデータについて新たな視点で提言し、全国1万塾の塾経営者の先生方から支持を頂いています。

今年9月より、従来の紙形態の発行回数を減らし、デジタル版の配信をスタートいたしました。無料でお読みいただけますので、ご興味のある方は、ぜひご登録ください!

▼配信アドレス登録はこちら▼

<https://kyoiku-saisei.com/magazineregister/>

対象学年  
小・中・高

冬期講習用テキスト

最新版を公開中! ラインナップのご確認・ご注文はこちらから!



**CHUOH** ネットショップ  
塾用教材の専門店



<https://www.shop-chuoh.com>

# 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.93

いまさらお聞きするまでもないでしょうが、「Z世代」という言葉をご存じでしょう。

インターネットが急激に普及した1990年代後半～2010年に生まれた、現時点で10代から20代前半の若者たちを指す言葉で、デジタル技術を上手に使いこなすことから「デジタルネイティブ」と呼ばれることもあります。

そうしたZ世代真っただ中の高校生たち——04年4月生まれ～07年3月生まれ——が、「紙媒体」と「デジタル媒体」とをどのように活用しているかを調べた「あなたは紙派？デジタル派？」の調査結果が10月19日に公表されましたので紹介したいと思います。

調査機関は学習管理アプリ「Studyplus」を開発・提供しているスタディプラス（株）のStudyplusトレンド研究所で、回答者は全国の「Studyplus」ユーザーの高校生2,951名。調査は10月3日～10月4日（インターネット調査）に実施されています。

まずは、アンケートの回答を眺めてみましょう。

## 学校生活

◇いま通っている高校で、全校向けの連絡（休校や学校行事）はどちらで行われていますか？

紙（プリント）	41.4%
デジタル（WEBサイト、LINEなど）	58.6%

◇いま通っている高校で、授業や課題に関する連絡はどちらで行われていますか？

紙（プリント）	36.8%
デジタル（WEBサイト、LINEなど）	63.2%

◇いま通っている高校からの連絡手段を選べるとしたら、どちらが良いですか？

紙（プリント）	22.5%
デジタル（WEBサイト、LINEなど）	77.5%

内閣府が昨年11月に実施した調査によれば、高校生の99.2%がインターネットを利用し、うちの99.3%が自分専用のスマホを持っているとのこと（内閣府「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査報告書」）。

学校からの連絡がデジタルに傾くのもうなずけますね。

## 日常生活

◇雑誌はどちらで見ますか？

紙で見る	79.7%
デジタルで見る（スマホ、タブレット、PCなど）	22.5%

◇マンガはどちらで見ますか？

紙で見る	54.8%
デジタルで見る（スマホ、タブレット、PCなど）	45.2%

◇メモはどっちで取ることが多いですか？

紙で取る	64.9%
デジタルで見る（スマホ、タブレット、PCなど）	45.2%

## 情報収集

◇遊びに行く場所や出かける場所の情報は、どちらで得ていますか？

紙（チラシ、雑誌、新聞など）	1.4%
デジタル（WEBサイト、SNS、YouTube）	98.6%

◇大学の情報はどちらで得ていますか？どちらが便利だと思いますか？

紙（チラシ、パンフレット、大学案内、新聞など）	20.9%
デジタル（WEBサイト、SNS、YouTube）	79.1%

◇情報を取得する際、紙とWEB・SNSを使い分けていますか？

デジタルと紙を使い分けて情報収集する割合	71.1%
----------------------	-------

# 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.93-2

最後の設問の回答から分かるように、高校生の多くは紙とデジタルとを上手に使い分けているようです。

ざっと眺めたところでは、「手元に置いておきたいもの」や「当面、忘れてはいけないもの」は紙で、「すぐに知りたい情報」や「長く取っておかなくてよいもの」はデジタルで、ということでしょうか。

情報の量ではデジタルの方が多いのが普通ですから、「詳しく知りたいもの」もデジタルで、ということだろうと思います。

この調査結果をみていて、ちょっと気になったのが大学情報についてです。

回答では紙で情報を得ている高校生は 20.9%、デジタルは 79.1%。

大学情報は「詳しく知りたいもの」の 1 つでしょうから、デジタル派自体が多いのは分かります。

とはいえ、全国に 807 校もある大学の HP を 1 つひとつ眺めるヒトなど考えられません。

詳しく調べる前にはなにか、調べるに至る理由があるはずです。

と、思っていたら、同研究所が 7 月に「高校生が大学を知るきっかけ」調査を行っていました。

以下、設問と高校生 300 名から寄せられた回答です。

## 高校生が大学を知るきっかけ

◇あなたが高校生になってから存在を知った大学はありますか？

高校生になってから知った大学あり	98.3%
------------------	-------

## 高校生が大学を知るきっかけ（つづき）

◇高校生になってから、大学を知る

きっかけになったもの上位 3 つを教えてください。

(複数回答/ここでは 10%以上の選択肢を多い順に掲載)

学校の先生に聞いて	48.1%
You Tube	29.5%
友だち・知人から聞いて	25.4%
WEB 広告	25.1%
チラシ・ハガキ	23.7%
親から聞いて	17.6%
WEB ニュース	15.6%
塾の先生に聞いて	13.9%
Twitter	12.5%
Instagram	12.5%
交通広告	11.2%
その他	27.8%

ウン？

トップは「学校の先生」、2 番目は「You Tube」、その次は「友だち・知人」。

クチコミがメインですね。

が、「塾の先生に聞いて」は 8 番目、13.9%に過ぎません。

これ、ちょっとヘンじゃありませんか。

高校生の通塾率は公立・私立とも 35%を超えています (文科省「平成 30 年度子供の学習費調査」)。

にもかかわらず、「塾の先生に聞いて新たに大学を知った高校生」は 13.9%。

少な過ぎるでしょう！

塾教師の仕事は「教科指導」「モチベーション喚起」「進学情報の提供」の 3 つとされています。

われわれはもう少し、「情報提供」に力を入れる必要があるんじゃないでしょうか。